

2024年度第2四半期(中間期) 決算説明会資料

- ※ 本資料に記載されている業績予想、並びに将来予測は、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に
依拠していますが、その正確性、或いは完全性について、当社は何ら表明、及び保証するものではなく、
実際の業績は、様々な要因の変化により、記載されている業績予想、並びに将来予測とは異なる可能性が
あることをご承知おきください。
- ※ 本資料は百万円未満を切り捨てて表示してあります。



中越パルプ工業株式会社

目次



I. 2024年度第2四半期(中間期) 連結決算概要

1. 連結業績概要	1
2. セグメント別損益	2
3. 連結営業利益増減内訳	3
4. 連結有形固定資産増減明細	4
5. 連結キャッシュ・フロー計算書	5

II. 2024年度 連結業績予想

1. 連結業績予想	6
2. 連結営業利益増減内訳(計画)	7

III. 中期経営計画2025 取組み状況

1. 概要	8
2. スケジュール進捗①②	9,10

3. 事業ポートフォリオ(売上高構成)	11
4. nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速	12,13

IV. トピックス

1. サステナビリティ(ESG)活動	14,15
2. 東京本社移転	16
3. 能登半島地震被害家屋解体廃棄物仮置場用地の貸与	17

V. 参考資料

1. 連結業績推移	18
2. 連結自己資本利益率(R O E)推移	19
3. 連結有利子負債残高推移	20
4. 連結設備投資・減価償却費推移	21
5. 原燃料価格推移(対2015年度比較)	22

連結業績概要



主な変動要因	(単位：百万円)	2023年度 中間期	2024年度 中間期	増 減
紙：[数量] 〈国内〉クラフト、印刷用紙、衛生用紙 販売数量増 〈輸出〉アジア地域を中心に拡販 パルプ：円安・市況回復等により販売金額増	売 上 高	52,493	55,572	+3,079
	営 業 利 益	3,304	3,126	▲178
	経 常 利 益	3,794	2,997	▲797
	親会社株主に帰属する 中間純利益	2,569	2,044	▲525
◇数量増、効率改善 ◆原燃料価格・物流費の上昇、修繕費増	中 間 配 当 金 (円 / 株)	30.00	35.00	+5.00
	自己資本利益率(ROE) (%)	4.8	3.6	▲1.2
増配(当初予想+5円/株)	減 価 償 却 費	2,905	3,062	+157
	為 替 レ ー ト (円 /US\$)	138.91	153.64	14.73円安
	ド バ イ 原 油 (US\$/bbl)	81	85	4高
	連 結 子 会 社 数 (社)	7	7	±0
	持 分 法 適 用 会 社 数 (社)	6	6	±0

セグメント別損益



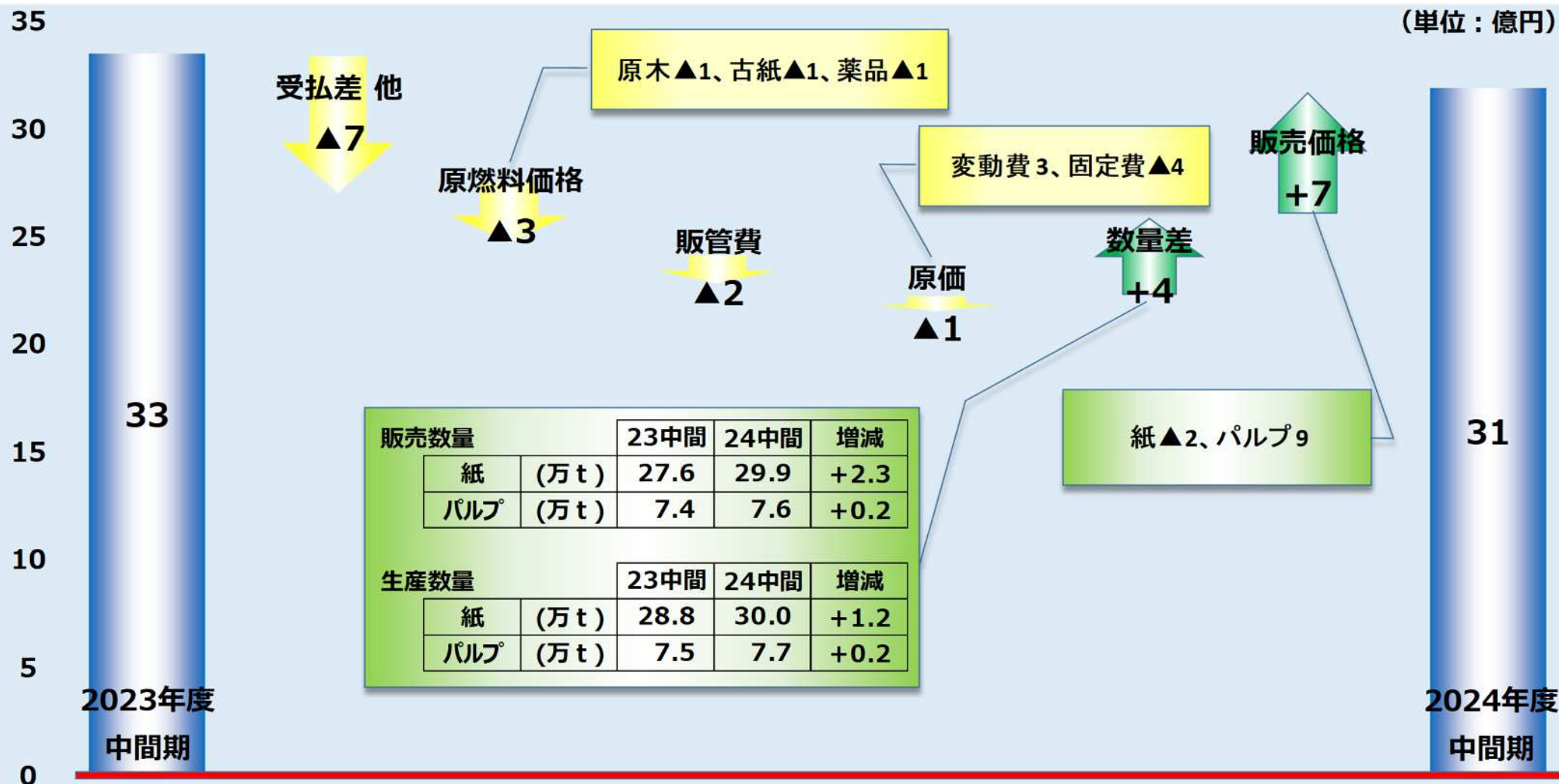
(単位：百万円)

		2023年度 中間期	2024年度 中間期	増減
紙・パルプ 製造事業	売 上 高	46,833	50,941	+4,108
	セグメント損益	2,891	2,555	▲336
発電事業	売 上 高	3,735	2,805	▲930
	セグメント損益	309	314	+5
その他	売 上 高	8,370	8,387	+17
	セグメント損益	110	235	+125
調整額	売 上 高	▲6,445	▲6,561	▲116
	セグメント損益	▲6	22	+28
合計	売 上 高	52,493	55,572	+3,079
	セグメント損益	3,304	3,126	▲178

連結営業利益増減内訳



(単位：億円)



連結有形固定資産増減明細



(単位：百万円)	2024年3月末	増 加	減価償却	除却等	2024年9月末	増 減
中 越 パ ル プ	49,503	3,401	▲2,883	▲29	49,992	+489
連 結 子 会 社	6,329	164	▲119	-	6,374	+45
連 結 調 整	▲1,680	▲22	11	-	▲1,691	▲11
合 計	54,152	3,543	▲2,991	▲29	54,675	+523

主なる増加の内訳

・東京本社再開発

4億円

・高岡工場 4号発電機回転子更新

4億円

・川内工場 2M/C ヘッドボックス更新

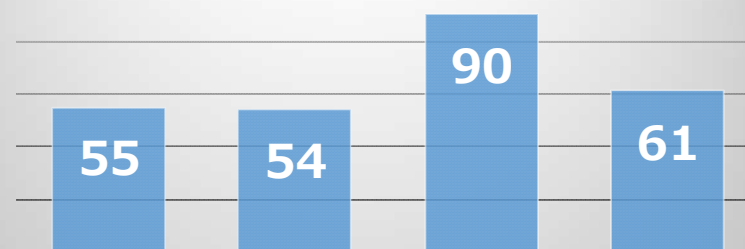
3億円

・高岡工場 新港浚渫工事バイパスコンベア設置

3億円

設備投資額の推移

金額(億円)



2021年度(実績) 2022年度(実績) 2023年度(実績) 2024年度(計画)

連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)	2023年度 中間期	2024年度 中間期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,913	3,183	▲2,730
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲4,231	▲3,570	+661
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,507	▲3,511	▲2,004
現金及び現金同等物残高	8,470	6,661	▲1,809

営業活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

税金等調整前中間純利益 28、減価償却費 30、仕入債務の減少額 ▲27

投資活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

有形固定資産の取得による支出 ▲36

財務活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

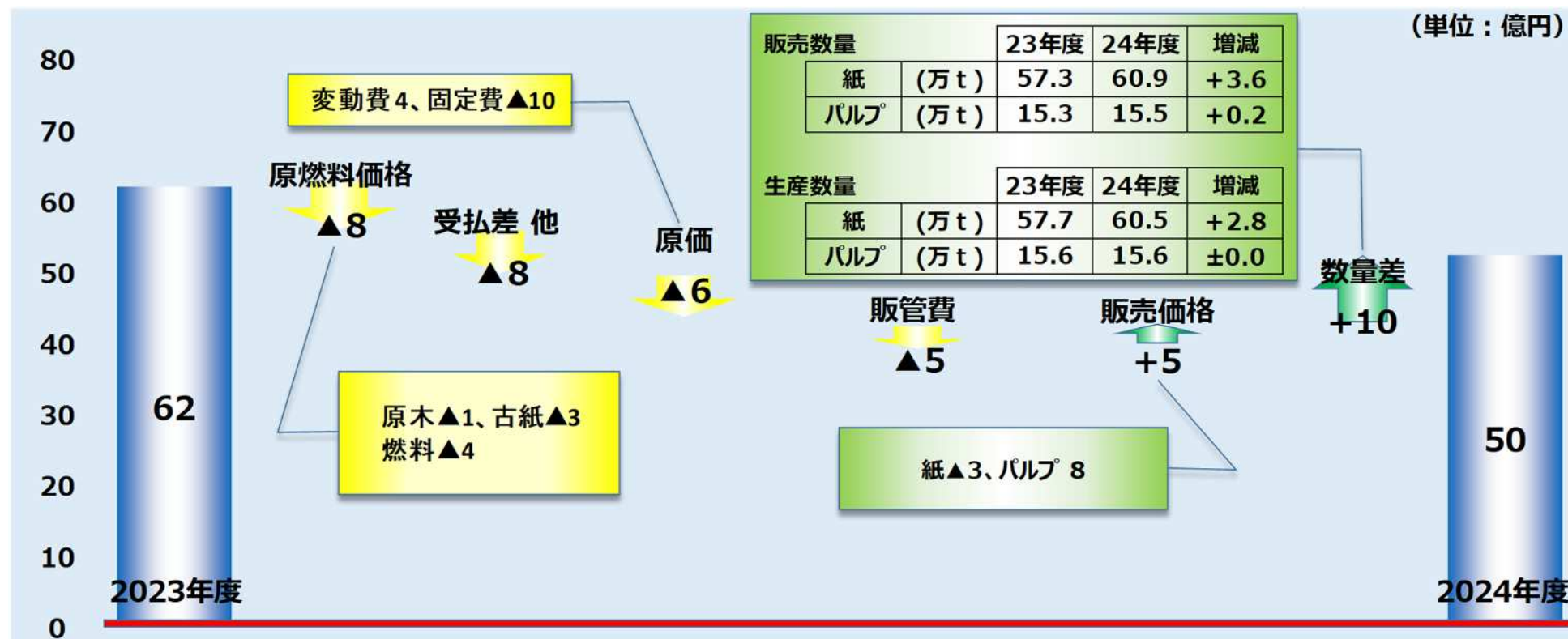
長期借入金の返済による支出 ▲31

連結業績予想



主な変動要因	(単位：百万円)	2023年度	2024年度	増 減
紙：[数量] 〈国内〉クラフト、印刷用紙、衛生用紙 販売数量増 〈輸出〉アジア地域を中心に拡販 パルプ：円安・市況回復等により販売金額増	売上高	107,826	112,000	+4,174
	営業利益	6,172	5,000	▲1,172
	経常利益	6,820	5,100	▲1,720
	親会社株主に帰属する 当期純利益	3,701	3,400	▲301
◇数量増、効率改善 ◆原燃料価格・物流費の上昇、修繕費増	年間配当金 (円/株)	60.00	70.00	+10.00
	自己資本利益率(ROE) (%)	6.9	6.0	▲0.9
増配(当初予想+10円/株)	減価償却費	5,926	6,200	+274
対US\$1円円安につき▲95百万円/年	為替レート (円/US\$)	143.94	151.06	7.12円安
1US\$/bbl高につき▲60百万円/年	ドバイ原油 (US\$/bbl)	84	82	2安
	連結子会社数 (社)	7	7	±0
	持分法適用会社数 (社)	6	6	±0

連結営業利益増減内訳(計画)



【2024年度下期連結営業利益予想】

- ・前提条件 為替：150円/US\$、ドバイ原油：80US\$/bbl、原木・古紙価格：直近の実勢価格
 - ・営業利益 19億円（年間50億円－上期31億円）
- 対上期原燃料価格上昇、パルプ市況悪化等により減益を見込む

中期経営計画2025 取組み状況：概要



中期経営計画2025

- ①既存事業の構造転換（紙に占めるグラフィック用紙の比率減 75→60%）
 - (1)紙パルプ事業の生産体制再構築
 - (2)グループ関係会社事業の選択と集中による収益力強化
- ②森林資源を活用した環境投資・環境ビジネス推進

ビジョン2030

既存事業の発展・環境ビジネスの発展・イノベーションにより、森林資源の有効活用を通じた循環型社会の構築と持続可能な未来を実現する

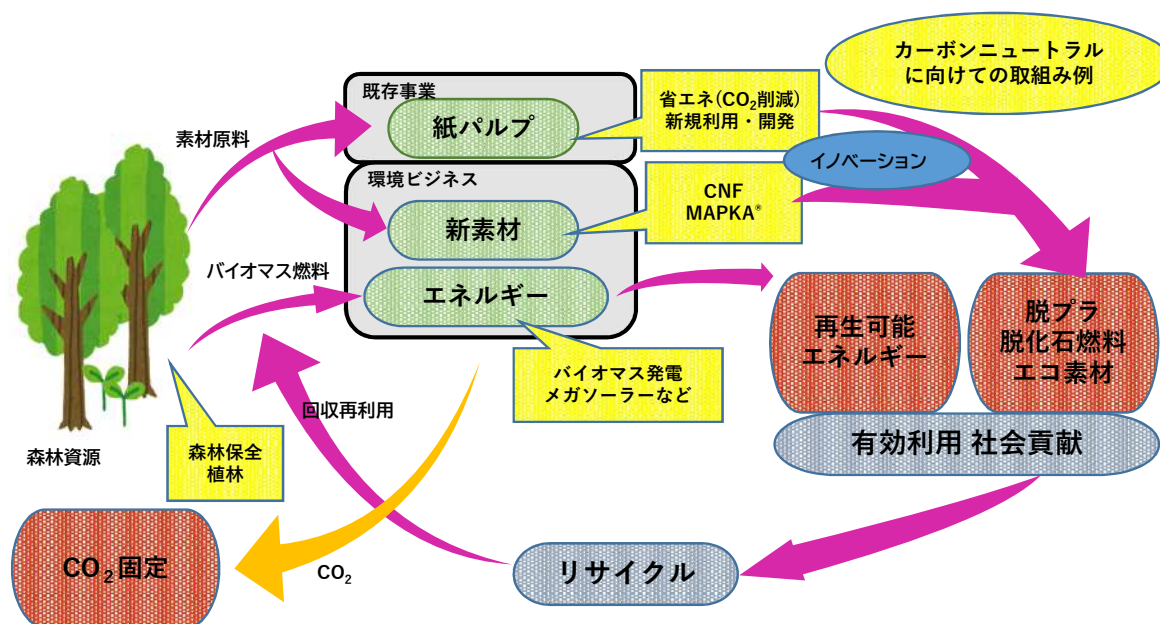
<収益目標>

	中期経営計画 目標	2024年度 (見込み)	2023年度 (実績)
営業利益	40億円	50億円	62億円
ROE	5%以上	6.0%	6.9%

<2030年度 環境目標>

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、製造工程における化石燃料由来のCO₂排出量を2030年度までに2013年度比50%削減する。

	2013年度	2023年度	削減率 (2013年度比)
千t-CO ₂ /年	411	260	36.7%



中期経営計画2025 取組み状況：スケジュール進捗①



＜①既存事業の構造転換 進捗＞

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
① 既存事業の構造転換	(1)-Ⅰ 6号マシン停機	生産集約完了 ● 2022年9月末 高岡工場6号マシン停機				
	(1)-Ⅱ 家庭紙マシン新設		設置		稼働 ● 2024年2月営業運転開始	
	(1)-Ⅲ 事業領域拡大		パルプ増販 ● 生産体制強化完了			
		脱プラ需要など紙の新規利用の拡大 ● 2024年度外販パルプ販売見込み：2020年度比97%増				
	(2) 関係会社収益力強化	三善製紙営業権譲受完了・文運堂文具事業譲渡完了				

- 家庭紙マシンについて、2023年12月に稼働し、2024年2月から営業運転を開始しました。現在、順調に稼働率を上げ、品質においても好評をいただいています。今後もより一層の品質向上と生産効率向上に努めます。

中期経営計画2025 取組み状況：スケジュール進捗②

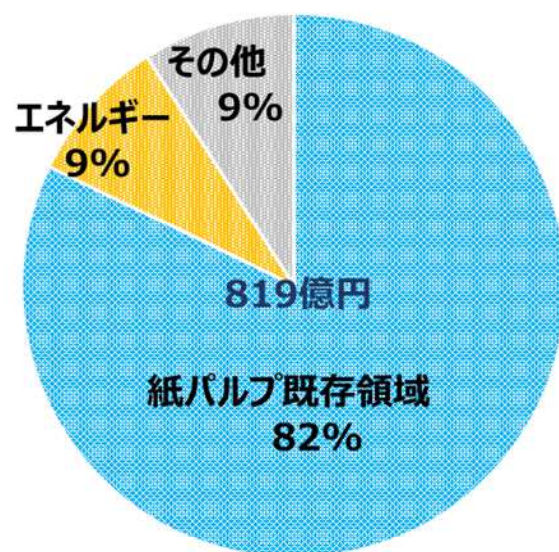


＜②森林資源を活用した環境投資・環境ビジネス推進 進捗＞

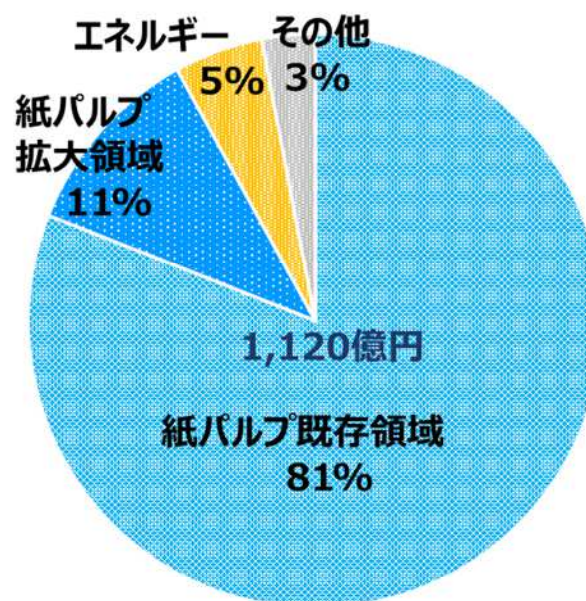
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
②森林資源を活用した環境投資・環境ビジネス推進	I CNF実用化・開発加速	高機能CNFプラント 2022年春より設備検証テスト開始、順次サンプル販売開始 nanoforestの新たな分野への利用拡大 ●樹脂、ゴム分野への利用拡大に向けた取り組みの推進				
	II 中越エコプロダクツ	製造設備試運転完了 品質確認完了後、営業運転 ※中越エコプロダクツの共同出資会社である環境経営総合研究所は、2024年8月に会社更生手続きの申し立てを受け、9月末に会社更生法による更生手続きが開始しています。今後につきましては検討中であり、開示すべき事項が発生した場合は速やかにお知らせします。				
	III バイオマス発電(検討)	検討				
	IV 既存ボイラー脱石炭	削減取り組み中 ●2024年度見込み：石炭使用量2020年度比68.6%削減(17,665t-CO ₂ 削減)				
	V 植林事業	2030年度までに1,000haを目標に実施中 ●2022年度より着手、順次拡大予定				

- CNFを用いた再生プラスチックの実用化に向けた取り組みが順調に進んでいます。
現在は、再生プラスチックを扱う業者で実機を用いた実証試験、最小限の設備導入で実用化するための製造方法の検討を行っています。
- 植林事業については富山地区にも範囲を拡大して実績を積み上げています。

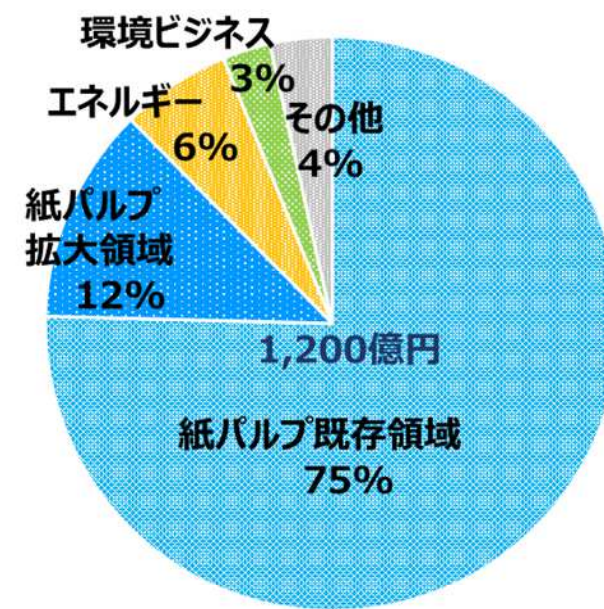
中期経営計画2025 取組み状況：事業ポートフォリオ(売上高構成)



2020年度実績



2024年度見込み



2025年度見通し

- 2024年度は外販パルプの増販や衛生用紙上市の影響などにより、11%の紙パルプ事業領域拡大(2020年度比)となる見込みです。
- エネルギー事業は総売上高の拡大や一部の発電設備の停止の影響等により、4%減(2020年度比)となる見込みです。

中期経営計画2025 取組状況

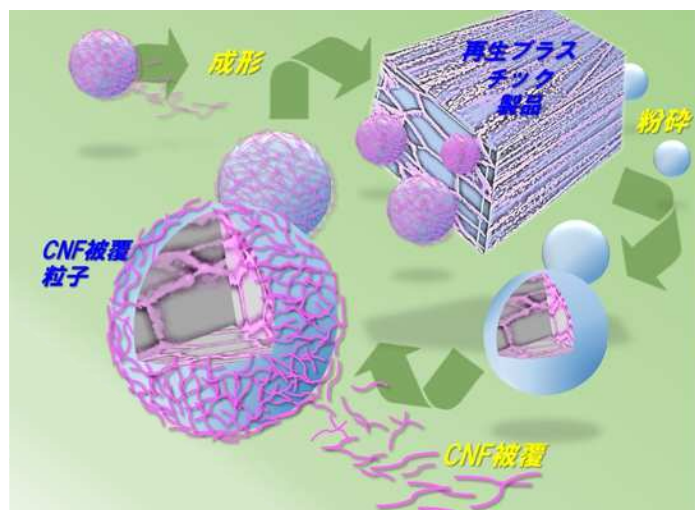


nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速（②-I）

新規分野への nanoforest 展開

・再生プラスチック分野への nanoforest 利用

東京農工大学に開設した寄附講座で進めておりますCNFを用いた再生プラスチックの実用化に向けた取り組みが順調に進んでいます。当技術は、当社CNFの両親媒性¹⁾を活かした取り組みで、回収され、細かく破碎されたプラスチック表面をCNFで被覆してから溶融混練することで、CNFがハニカム状に配置されるというユニークなものです。CNF被覆した再生プラスチックは耐衝撃性が高く、成形加工時の流動性が改善することが判明しており、これらの成果は学術論文²⁾にも掲載されております。



既に再生プラスチックを扱う業者で実機を用いた実証試験に入っており、現在は最小限の設備を導入し、実用化に向けた製造方法の検討を行っております。

樹脂のリサイクル利用は、環境面で今後需要が高まると予想されますが、品質やコストといった面が課題となります。学術的な研究に加え、再生プラスチック業者と共に、より実情に沿った取り組みを行うことで実用化に繋がると考えています。早期量産化を目指し、当社も後押しして参ります。

1) Kondo et al., *Biomacromolecules* 25, 5909 (2024)

2) Kondo et al., *ACS Appl. Polym. Mater.* 6, 1276 (2024)

中期経営計画2025 取組状況



nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速（②-I）

高機能CNFパイロットプラント建設に向けた取り組み

従来から販売している

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| ・nanoforest-S（水分散） | 低解繊CNFのスラリー品（水分散品） |
| ・nanoforest-PDP（粉体） | 樹脂やゴムへの分散性を改善させたCNF乾燥粉体 |
| ・nanoforest-MB（ペレット） | CNFを樹脂やゴムなどに20～30%分散させたもの |

に加え、以下の3種類の高機能CNFの製造、及びパイロットプラントの建設に向けた取り組みを進めています。

1) nanoforest-S（高解繊CNF）

従来品よりも解繊を進め、高機能製品への適応性を向上させたCNF
主な用途：化粧品、農業利用

2) nanoforest-M（疎水化CNF）

有機溶剤やオイルなどへの分散性を向上させたCNF
主な用途：化粧品、工業利用
（オイルの増粘効果があり、化粧品用途では触感が改善）

3) nanoforest-CMB（CNF成形体）

nanoforest-Sを脱水乾燥させた軽量高強度な固形状の成形体

現在、研究室と川内工場に設置した実機設備を用い、設備検証テストと各製品、及びサンプルの製造・販売を行っています。
利用拡大を図ると共に、販売先からのフィードバックを検証テストに反映させ、より効率的な製造方法の確立と製造コスト低減に向けた検討を進めています。



トピックス①サステナビリティ（ESG）活動－環境－



「ビジョン2030」にて掲げた
「既存事業の発展・環境ビジネスの発展・
イノベーションにより、森林資源の有効活用を
通じた循環型社会の構築と持続可能な未来を
実現する」ために、サステナビリティ活動を
推進しています。

TCFD

提言に沿って事業への影響の分析を行い、重要なリスク・機会を開示。今年度よりGHG排出量を連結ベースで算出しています。

GHG排出量
2023年度実績
Scope1排出量
414
Scope2排出量
52
[千t-CO₂ eq]

自然共生サイト

当社社有林「中パの森 高岡」が環境省の自然共生サイトに認定。2030年までに陸と海の30%以上を保全する30by30目標」達成に向け、生物多様性の保全・増進に貢献していきます。

※保護地域以外で
生物多様性保全に
資する区域

「OECD※」
として
国際データ
ベースに
登録

GXリーグ

2024年度に新規参画。
カーボンニュートラルに向けたロードマップ
を策定し、省エネや石炭使用量削減の
取り組みを推進して
います。

2050年までに
カーボンニュ
ートラルの実現

港湾脱炭素化推進協議会

港湾・臨海部を脱炭素化する「カーボン
ニュートラルポート」形成に向けた協議会
が立ち上げられ、川内工場は川内港、
高岡工場・二塚製造部は伏木富山港
の協議会への参加を表明し、取り組み
を進めています。

伏木富山港
6月に
港湾脱炭素
化推進計画
策定



トピックス①サステナビリティ（ESG）活動－人的資本－

「ビジョン2030」実現のため、
多様な人材の確保と
教育や環境の整備を進めています。

定年延長制度

これまでの再雇用制度から、定年を65歳とする
定年延長制度を導入し、経験豊かな人材の
確保に努めています。

2024年4月
導入

ダイバーシティ推進

「人材育成に関する方針」「社内環境整備に関する方針」を定め、
2033年3月までに管理職に占める女性労働者・中途採用者の
合計割合を25%以上、2026年3月までに育児休業取得率を
男女ともに100%とする目標を設定し、取り組みを進めています。

2023年度実績

管理職に
占める
女性・中途
採用者
15.2%

2023年度実績

育児休業
取得率
42.9%

2023年度実績

女性の
育児休業
取得率
100%

トピックス②東京本社移転



新社屋
外観



顔認証
システム

2021年より建て替え工事を行っていた東京本社が完成し、2024年10月に東京都中央区銀座に移転しました。

新社屋は9階建て、入口・エレベーター内に顔認証システムを導入しセキュリティを強化した最新のビルです。

今後、ビルの活用も検討していく予定です。

1Fロビー



執務
スペース



トピックス③能登半島地震被害家屋解体廃棄物仮置場用地の貸与



令和6年能登半島地震からの復興支援を目的に、当社高岡工場内の土地の一部を災害廃棄物仮置場用地として富山県氷見市に貸与する契約を締結しました。

約6,500㎡の土地に、震災で被害を受けた家屋を解体する際に発生する廃棄物を仮置きをする予定です。

現在は、年内の受入れ開始を目指し、仮置場の整備を進めてまいります。

今後も被災地に所在する企業として、地域の復興を支援してまいりますとともに、一日でも早い被災地の復興と、被災された皆さまが安心して生活できる環境が戻ることを心よりお祈り申し上げます。

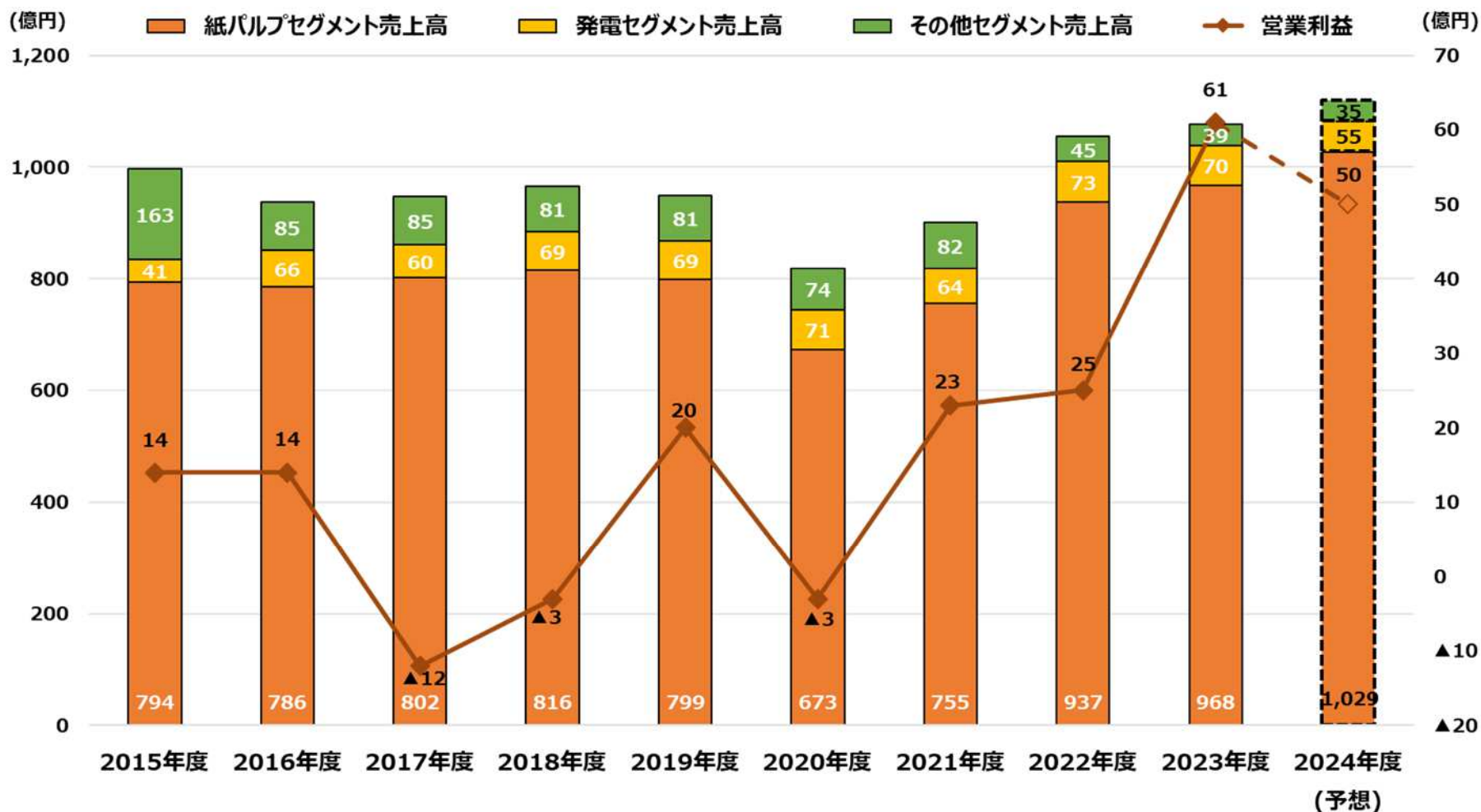


氷見市との調印式の様子

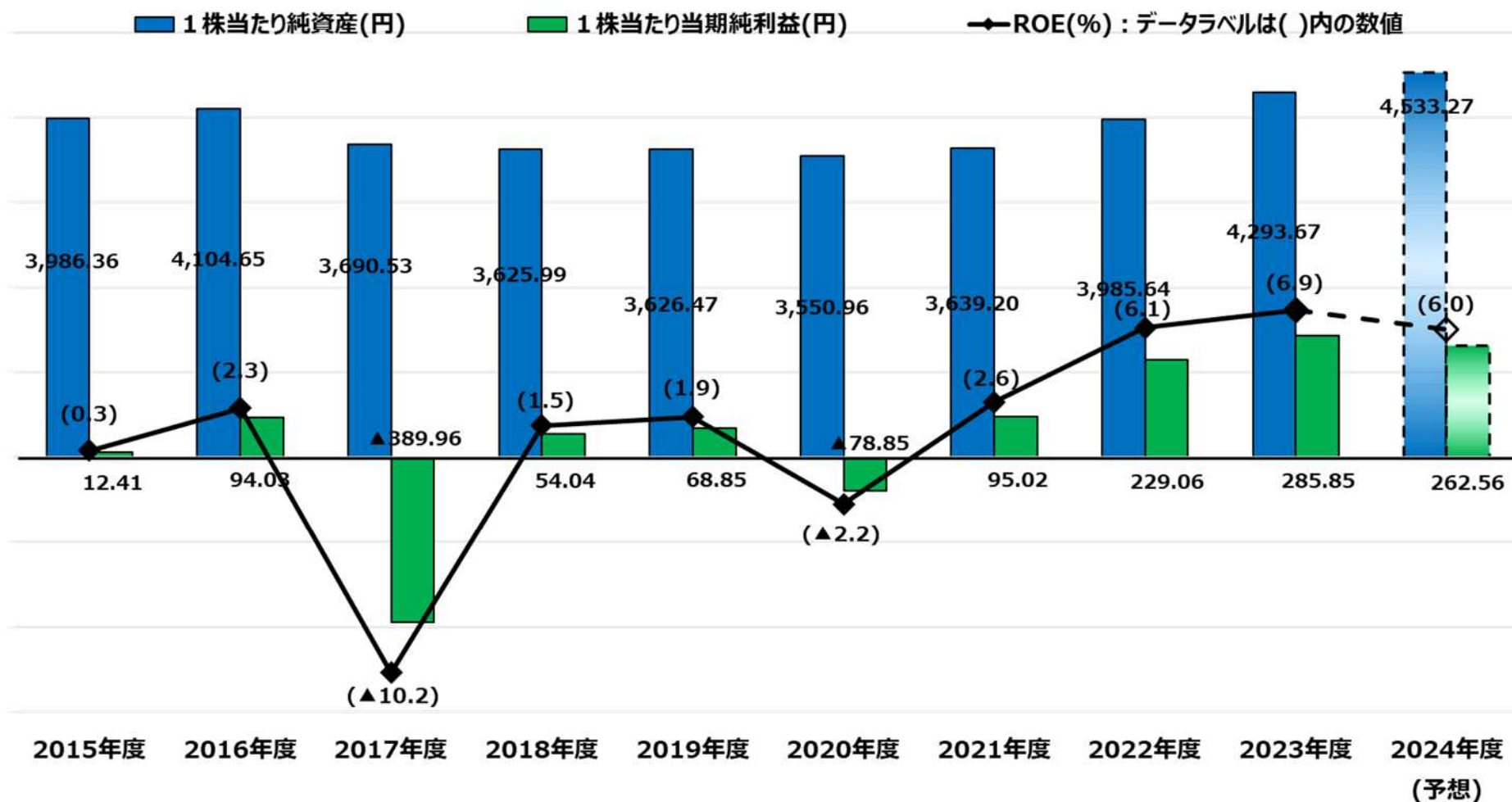


災害廃棄物仮置場用地の整備状況

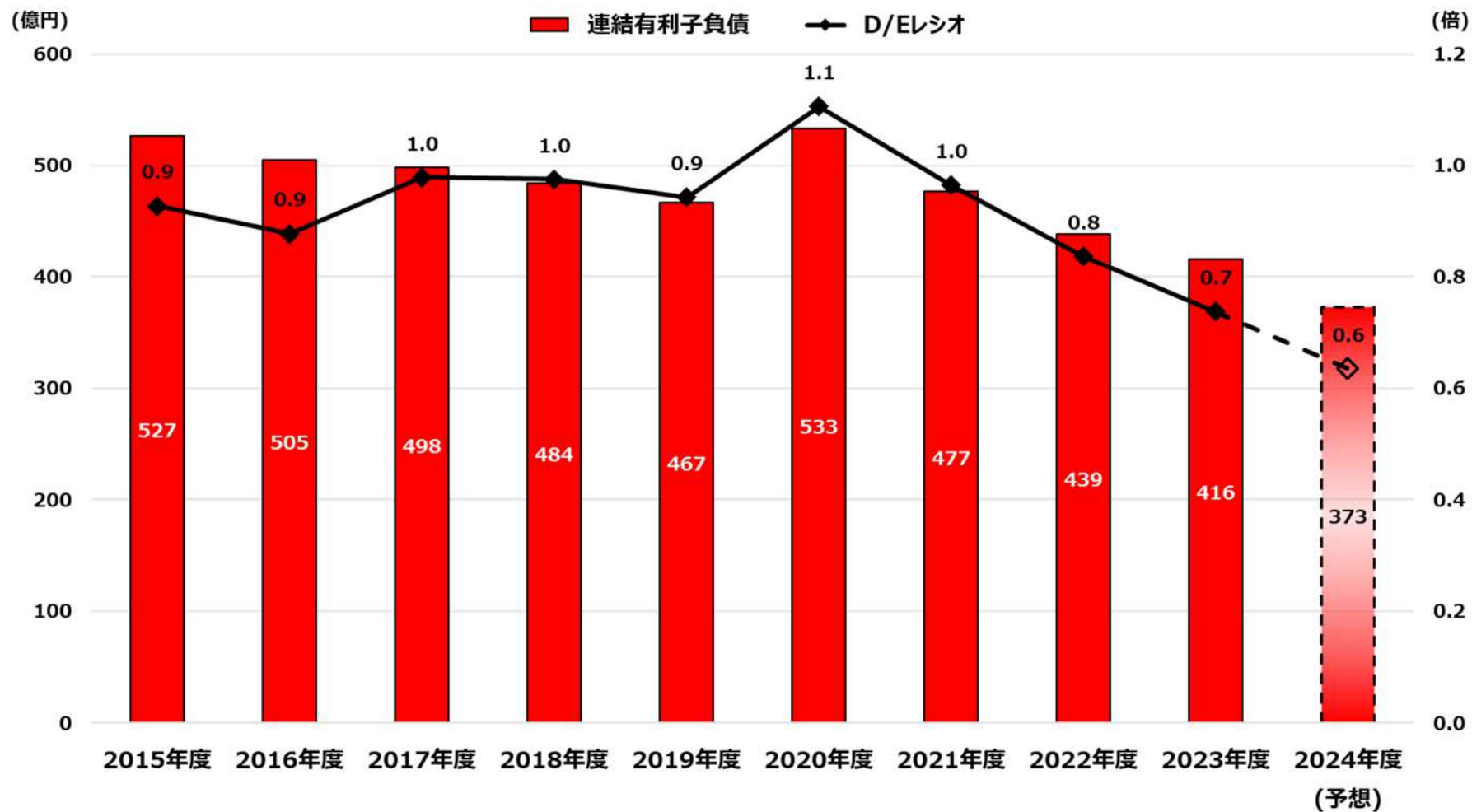
【参考資料】連結業績推移



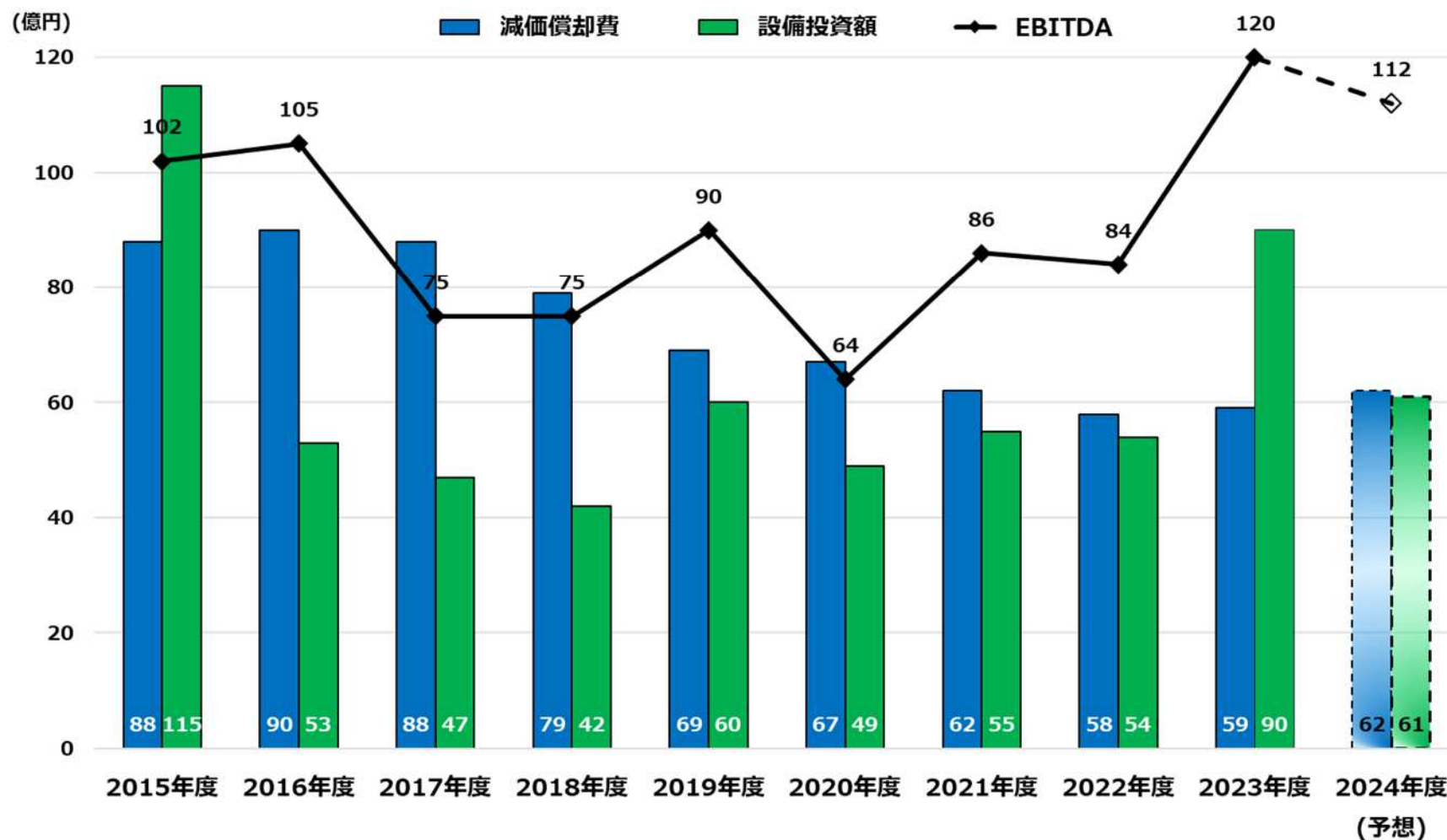
【参考資料】連結自己資本利益率(R O E)推移



【参考資料】連結有利子負債残高推移



【参考資料】連結設備投資・減価償却費推移



【参考資料】原燃料価格推移(対2015年度比較)

